まちかど ネットワーク

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

十月は里親月間。今回は市内在住の里親で構成されている「富士市里親会」を紹介します。

富士市里親会

里親とは、何らかの事情によって親と一緒に生活できない十八歳未満の子どもを、家族の一員として迎え入れ、温かい愛情と家庭的な雰囲気の中で、我が子同様に育てていく人のこと。里親の形には大きく分けて、子どもが社会で自立できるまでの間養育する「養育里親」、週末などの短期間家庭で生活の面倒を見る「短期里親」、養子縁組、または特別養子縁組をして法律上親子関係を結ぶ「養子里親」があります。さらにこの十月からは、虐待児童などを預かり、専門的なケアに当たる専門里親制度がスタートします。

市内に住む二十七組の里親から成る里親会では、里子の養育について研修を行ったり、子どもと一緒にレクリエーションを楽しんだりするほか、福祉まつりなどへ参加し、里親制度の理解を深めてもらうためのPR活動も積極的に行っています。

里親歴二十四年で、会長を務める渡辺孝さん（今泉）は、「子どもが家にいることで夫婦の会話もふえ、家庭の中が明るくにぎやかになりますね。子どもから学ぶことはたくさんあります。子どもの成長に立ち会うことが里親としての喜びでありだいご味ですね。預かった子どもには、将来自分の家庭を持ったときにこの経験を生かしてほしいと思っています。

▲先月行われたレクリエーションでは、ブドウ狩りを楽しみました。

児童虐待をはじめ、子どもの養育にかかわる問題が多くなっています。これを受けて子どもを預かる施設もいっぱいの状況です。そんな子どもたちに温かな家庭の味を提供する里親の存在はますます大きくなっていると思います。

ぜひ多くの皆さんに里親について理解していただき、子どもたちの温かな受け皿づくりに手を貸してほしいですね」と話してくれました。

●里親制度について詳しくは…児童福祉課☎五五－二七六三

ズーム アップ ふじ

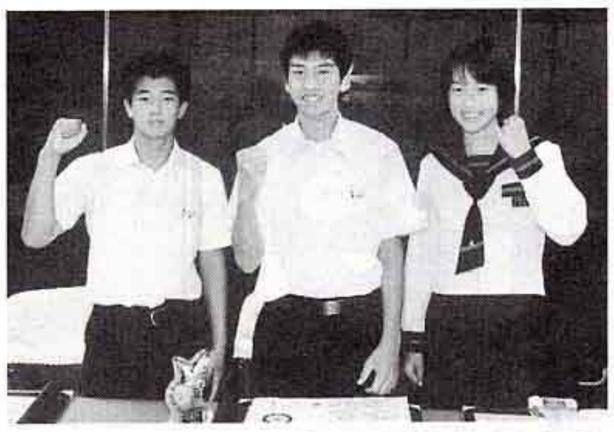
全日本中学校陸上競技選手権大会で 富士市の中学生三選手が見事入賞

八月二十一日に京都市で開催された第二十九回全日本中学校陸上競技選手権大会。この大会で、富士市の三人の中学生が積み重ねた練習の成果を発揮し、見事入賞を果たしました。

入賞したのは、女子百メートル障害で優勝した上野綾香さん（吉原北中三年）、男子棒高跳びで三位に入賞した鈴木崇文（たかふみ）さん（富士中三年）、同種目で四位入賞した内川雄一さん（富士中三年）の三選手。全国大会決勝という大舞台で、上野さんは十四秒三九、鈴木さんは四メートル四十センチ、内川さんは四メートル三十センチと、三人それぞれが自己ベストの記録を更新しました。

そして、このほど三人は市役所で、大会での活躍をたたえて教育長表彰が贈られた後、市長を表敬訪問。そろって、入賞の喜びや、支えてくれた家族や友人、競技仲間、先生への感謝の気持ちなどを笑顔で伝えました。

三人は大会を振り返り、「決勝ではほとんど同時にゴールし、一瞬負けたかなと思いました。わずかの差で自分が優勝できたなんて信じられませんでした。これまで二位ばかりだったので本当にうれしいです」（上野さん）、「決勝では途中から波に乗れていいジャンプができました。やったと思いました」（鈴木さん）、「自分を信じていい記録が出せました。ずっと頑張ってきたかいがありました」（内川さん）と話し、「これからも競技を続け、さらにいい記録が出せるよう頑張ります」と次の目標に向けて抱負を語ってくれました。



▲全国大会で入賞し、教育長表彰を受賞した3選手（左から内川さん、鈴木さん、上野さん）